

「ルワンダの小学校教員の算数指導力向上プロジェクト」(JICA 受託事業) 研修報告

1. 日本研修について

○期間 2016年11月26日～12月9日

○研修員4名(ウムチョムィーザ学園校長、同教頭、算数教員、ガサボ郡キミロンコ地区教育主任)

○研修内容

ルワンダの小学校教員の算数指導力向上を目的としたプロジェクトの日本研修が行われ、研修員4名が昨年11月27日、来日しました。静岡大学で日本の算数教育の教授法、理数科教育の役割について学び、附属小学校では、授業を参観し先生方との意見の交換を行いました。

福島の小学校では特別授業で実際にルワンダの子ども達の遊びを紹介し、音楽授業では子ども達との演奏共演も体験。また指導案に基づく研究授業をとおして先生方が指導力向上に努める日本の学校の姿を知ることができました。研修の合間には、仮設住宅を訪問し、ルワンダダンスを披露し交流。福島市のトークセッションでは子どもの教育についての討論にも参加し、ルワンダの小学校の取り組みを報告しました。静岡、福島、東京と移動しながら研修最後には修了式が行われ、マリールイスから日本研修の修了証が手渡されました。その後ルワンダ大使館を訪問し大使に研修報告、12月8日全員無事帰国の途に着きました。 阿部貞夫(研修担当)



静岡大学にて算数授業の研修



福島市立清明小学校で

2. 現地ルワンダからの報告

ルワンダに帰国した研修員は、1月にそれぞれ与えられたテーマで報告書を作成しました。それをもとに2月に帰国報告会を行い、研修員全員が日本の印象や日本の教育についてパワーポイントを使ってプレゼンをしました。報告会の目的は、研修員が日本で習得したことを、他の先生たちと共有することです。報告会は大成功で、終了後、参加した先生方だけでなく、プロジェクトの共同主催団体のADESOCの会員からも、「算数教育の活動を是非、一緒にやりたい」との声が聞かれました。

教員の算数指導力を向上させるにはどうすればよいか。私たちが立てた計画は、日本で行われている教員研修をとり入れ、校内研修を通して教員が力をつけていくというものです。具体的には、月3回の校内研修を行い、年度の終わり(11月)に研究授業を行い、2年目には、対象を学園のある地域の全小学校に拡大して研究会を行う予定です。校内研修になじみのないルワンダの教育現場のために、校内研修のここでのひな形を開発してほしいと、JICAからも期待されています。

では、具体的に校内研修で何をしたらよいか。現地の教育現場の問題を探ることから始めています。授業を観て改善点を話し合う、子供たちにテストをして結果を分析し改善策を練るといった作業です。重要なことは、日本の教育現場にも改善すべき問題があり、ルワンダの現場には残しておきたいものがあるという視点です。今は、現地理数科コンサルと議論しながら校内研修の内容を決め進めています。

廣瀬桂子(プロジェクト数学教育専門家)

ルワンダで校内研修が始まりました

